

商工会議所LOBO(早期景気観測)

-2015年8月調査結果(概要版・付帯調査)-



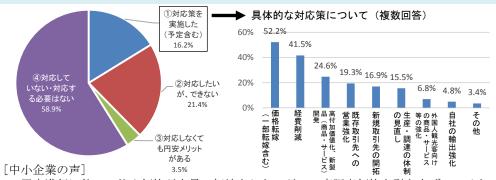
業況DIは、3カ月ぶりの改善。先行きは回復見込むも、力強さを欠く

ポイント

- ▶ 8月の全産業合計の業況DIは、▲14.9と、前月から+5.1ポイントの改 善。好調な観光関連が全体を牽引する中、プレミアム付商品券などの政策効果や猛暑 の影響による受注・売上増がみられたほか、住宅・設備投資も持ち直しに向けた動き が続く。ただし、「悪化」から「不変」への変化もDIの押し上げ要因となったこと に留意が必要。価格転嫁の遅れや人手不足、人件費の上昇が足かせとなる状況は変わ らず、地域や業種によって回復のペースにばらつきが残るなど、一進一退の動きと なっている。
- ▶ 先行きについては、先行き見通しDIが▲13.5(今月比+1.4ポイント) と改善を見込むも、「悪化」から「不変」への変化が主因。プレミアム付商品券など による消費喚起や、インバウンドをはじめとする観光関連の需要増、住宅・設備投資 の回復などへの期待感が伺える。他方で、コスト増加分の転嫁遅れや人手不足の状況 が続く中、食料品などの値上げに伴う消費者マインドの低下や、中国経済の減速によ る影響を懸念する声が聞かれるなど、先行きに確信を持てない企業も多く、回復に力 強さを欠く。

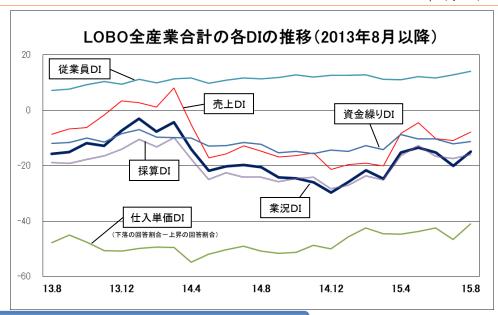
円安への対応状況

▶ この1年間における円安への対応状況について、「対応策を実施した(予定含む) | と回 答した企業(全産業)は、16.2%、「対応していない・対応する必要はない」と回答し た企業(全産業)は、58.9%



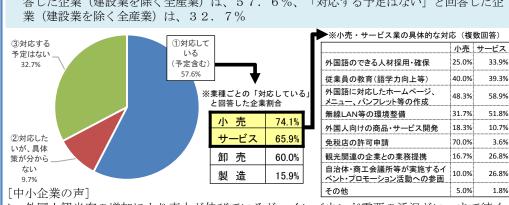
- ▶ 円安進行に伴い、仕入価格が上昇。転嫁をしたいが、一度販売価格を引き上げているた め、再度の転嫁は厳しい (東京・化学製品専門商社)
- ▶ 輸入木材の仕入コストが増大しているため、取引先に国産木材への切り替えを提案する とともに、製品の高付加価値化を進めている (松阪・製材木製品製造)
- ▶ 円安の長期化を受けて、輸入する材料の仕入先を見直し、コスト削減を図る予定

(神戸・靴製造販売)



インバウンド需要獲得に向けた対応状況

▶ インバウンド需要の獲得に向けた対応状況について、「対応している(予定含む) | と回 答した企業(建設業を除く全産業)は、57.6%、「対応する予定はない」と回答した企 業(建設業を除く全産業)は、32.7%



- ▶ 外国人観光客の増加により売上が伸びているが、インバウンド需要の活況がいつまで続く か確信が持てず、人員増に踏み切れない (札幌・海産物加工品製造)
- 外国人観光客の利用が増えているため、接客の仕方などのソフト面と案内表示などのハー ド面で対応を検討している (川口・総合スーパー)
- ▶ 香港・台湾などへの営業を強化した他、英語・中国語に対応したホームページを開設した (徳島・ホテル業)

商工会議所LOBO(早期景気観測) - 2015年8月調査結果-





業況Dlは、3カ月ぶりの改善。先行きは回復見込むも、力強さを欠く

く結果のポイント>

- ◇8月の全産業合計の業況D | は、▲14.9と、前月から+5.1ポイントの 改善。好調な観光関連が全体を牽引する中、プレミアム付商品券などの政策効 果や猛暑の影響による受注・売上増がみられたほか、住宅・設備投資も持ち直 しに向けた動きが続く。ただし、「悪化」から「不変」への変化もDIの押し 上げ要因となったことに留意が必要。価格転嫁の遅れや人手不足、人件費の上 昇が足かせとなる状況は変わらず、地域や業種によって回復のペースにばらつ きが残るなど、一進一退の動きとなっている。
- ◇業種別では、建設業は、住宅関連が持ち直しつつあるほか、設備投資にも一部 で動きがみられ改善したものの、「悪化」から「不変」への変化も影響したこ とに留意が必要。製造業は、エアコンなどの家電やスマートフォン向けの生産 が上向きつつあるほか、省力化を中心に工作機械関連の受注も底堅く推移し、 マイナス幅が縮小。卸売業は、猛暑や好調な観光需要を背景に、食料・飲料品 をはじめ夏物商品の受注が増えたほか、住宅向け建築資材などにも動きがみら れ、改善。小売業は、プレミアム付商品券の政策効果が続く中、猛暑の影響か ら飲料品や夏物衣料などの売上が伸び、マイナス幅が縮小。ただし、消費者の 節約志向を指摘する声も多く、改善幅は小幅に止まる。サービス業は、夏休み に伴う国内旅行が好調だった宿泊業が全体を押し上げたほか、飲料品の出荷増 やガソリン価格の下落を受けて運送業の業況が好転したことなどから、改善。
- ◇先行きについては、先行き見通しD | が▲13.5(今月比+1.4ポイン ト)と改善を見込むも、「悪化」から「不変」への変化が主因。プレミアム付 商品券などによる消費喚起や、インバウンドをはじめとする観光関連の需要 増、住宅・設備投資の回復などへの期待感が伺える。他方で、コスト増加分 の転嫁遅れや人手不足の状況が続く中、食料品などの値上げに伴う消費者マ インドの低下や、中国経済の減速による影響を懸念する声が聞かれるなど、 先行きに確信を持てない企業も多く、回復に力強さを欠く。

----- 調査要領 --

- ○調査期間 2015年8月17日~21日
- ○調査対象 全国の422商工会議所が2976企業にヒアリング

(内訳) 建設業:462 製造業:717 卸売業:319 小売業:702 サービス業:776 **〇調査項目** 今月の業況・売上・採算などについての状況および自社が直面する問題等 ※DΙ値(景況判断指数)について

DI値は、業況・売上・採算などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準 として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの 値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。したがって、売上高などの実 数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景況感の相対的な広がりを意味する。

> DI=(増加・好転などの回答割合)-(減少・悪化などの回答割合) 業況・採算:(好転)-(悪化) 売上:(増加)-(減少)

<産業別の特徴的な動き>

産業別にみると、今月の業況DIは前月に比べ、全業種で改善した。 各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

DI値の傾向(最近6カ月の傾向) ☆ 改善傾向 ☆ ほぼ横ばい ↓ 悪化傾向

【建設業】

業況	売上	採算	資金繰り	仕入単価	従業員
\Diamond	\Diamond	\Diamond	\Diamond	\Diamond	\Diamond

- ・「利幅は小さいものの、小規模マンションなど住宅関連の受注が増えてきている」 (一般工事業)
- ・「建築コストの増大に伴い、計画の見直しや延期を決める顧客が出始めており、 先行きの見通しが立てづらい」(一般工事業)
- ・「家電量販店などがリフォーム事業の営業を強化している。自社の業績は今のと ころ堅調だが、差別化を図るため対応策を検討中」(建築工事業)

【製造業】

業況	売上	採算	資金繰り	仕入単価	従業員
\Diamond	\Diamond	\Diamond	\Rightarrow	\Diamond	ightharpoons

- ・「原材料価格上昇分の転嫁が困難。他方で、販促活動や生産ライン見直しの効果 が出始めており、今後の収益改善を期待したい」(食料品製造・販売業)
- ・「自社製品の高精度化・高付加価値化を図るため設備投資を行いたいが、費用が 大きく、資金繰りが心配」(金属加工業)
- ・「エアコンをはじめ家電関連の受注が持ち直しているほか、スマートフォン向け は新機種用に動きが出始めている」(電気機械部品製造業)

【卸売業】

業況	売上	採算	資金繰り	仕入単価	従業員
\vdash	\vdash	\vdash	\vdash	\vdash	\vdash

- ・「好天が続いたことから、帽子など夏物商品の受注が好調。また、秋物商品の引き合いも増えつつある」(服飾品卸売業)
- ・「過剰在庫を避けるため発注を小口化させる取引先が増えており、運送費などの コストが増大。自社の収益を圧迫している」(日用品卸売業)
- ・「住宅向けを中心に売上が伸びており、物流倉庫の移転・新設を計画している」 (建築資材卸売業)

【小売業】

業況	売上	採算	資金繰り	仕入単価	従業員
\Box	\Diamond	ightharpoons	ightharpoons	ightharpoons	ightharpoons

- ・「プレミアム付商品券の効果により、ギフトや化粧品、婦人服、時計が好調。また、お盆は帰省客の来店も多く、売上を押し上げた」(百貨店)
- ・「食料品などの値上げが相次ぐ中、必要なものしか買わない消費者が増えており、 売上が伸び悩んでいる」(総合スーパー)
- ・「猛暑日が続いたため、冷菓など食料・飲料品の売れ行きが良かった」(商店街)

【サービス業】

業況	売上	採算	資金繰り	仕入単価	従業員
\Rightarrow	介	\Rightarrow	\Rightarrow	\Rightarrow	\Rightarrow

- ・「軽油価格の下落に伴い、採算が好転しつつある。他方で、荷主から運送費の値 下げ要求が予想されるため、楽観できない」(運送業)
- ・「外国人観光客の利用が増えている。さらなる集客を図るため、外国人向けのメニュー開発やサービス強化を図る予定」(飲食店)
- ・「お盆を中心に8月は満室の状況が続いた。また、9月にある連休の予約も埋まり、業績は好調に推移している」(旅館業)

【業況についての判断】

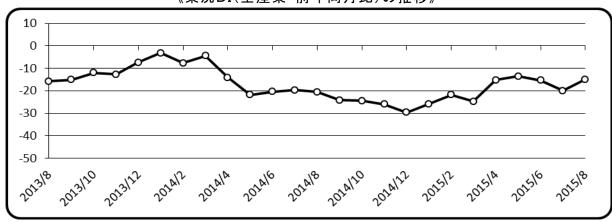
- 8月の景況をみると、全産業合計の業況DI(前年同月比ベース、以下同じ)は ▲ 1 4 . 9 (前月比+5 . 1 ポイント)と、改善。産業別にみると、建設業は、住宅関連が持ち直しつつあるほか、設備投資にも一部で動きがみられ改善したものの、「悪化」から「不変」への変化も影響したことに留意が必要。製造業は、エアコンなどの家電やスマートフォン向けの生産が上向きつつあるほか、省力化を中心に工作機械関連の受注も底堅く推移し、マイナス幅が縮小。卸売業は、猛暑や好調な観光需要を背景に、食料・飲料品をはじめ夏物商品の受注が増えたほか、住宅向け建築資材などにも動きがみられ、改善。小売業は、プレミアム付商品券の政策効果が続く中、猛暑の影響から飲料品や夏物衣料などの売上が伸び、マイナス幅が縮小。ただし、消費者の節約志向を指摘する声も多く、改善幅は小幅に止まる。サービス業は、夏休みに伴う国内旅行が好調だった宿泊業が全体を押し上げたほか、飲料品の出荷増やガソリン価格の下落を受けて運送業の業況が好転したことなどから、改善。
- 向こう 3 カ月(9 ~ 1 1月)の先行き見通しは、全産業合計の業況 D I (今月比ベース)が \blacktriangle 1 3 . 5 (今月比 + 1 . 4 ポイント)と、改善するものの、「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実体はほぼ横ばいの見込み。
- 産業別に先行き見通しをみると、今月と比べ、建設業は、住宅・設備投資で持ち直しに向けた動きが続く中、受注回復への期待感から改善。ただし、「悪化」から「不変」への変化も影響していることに留意が必要。卸売業は、好調な観光関連や持ち直しつつある住宅関連の需要に下支えされ、横ばい圏内での推移が続く見込み。改善を見込む製造業は「悪化」から「不変」、悪化を見込む小売業、サービス業は「好転」から「不変」への変化が主因であり、実体はほぼ横ばい。

業況DI(前年同月比)の推移

	15年						先行き見通し
	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9~11月
全産業	▲ 24. 7	▲ 15. 3	▲ 13.5	▲ 15. 3	▲ 20.0	▲ 14. 9	▲ 13.5
建 設	▲ 6.8	▲ 10.1	▲ 13.4	▲ 15. 1	▲ 23.1	▲ 19. 1	▲ 8.7
製造	▲ 15.6	▲ 15.6	▲ 15. 1	▲ 12.6	▲ 17.9	▲ 13.0	▲ 9.3
卸売	▲ 34.2	▲ 20.5	▲ 17.3	▲ 20.6	▲ 23.7	▲ 15.5	▲ 16.0
小 売	▲ 49.7	▲ 18.1	▲ 13.6	▲ 19.8	▲ 24.4	▲ 23.0	▲ 25.9
サービス	▲ 17. 7	▲ 13. 2	▲ 10.0	▲ 11.6	▲ 13.9	▲ 6.5	▲ 8.3

※「先行き見通し」は当月に比べた向こう3カ月の先行き見通しDI

《業況DI(全産業・前年同月比)の推移》



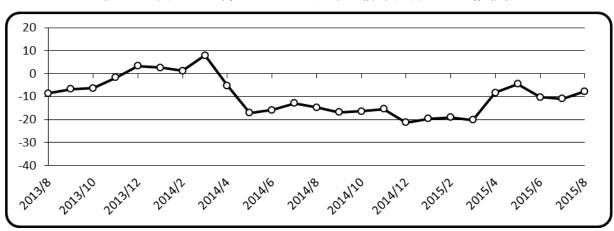
【売上(受注・出荷)の状況についての判断】

- 売上面では、全産業合計の売上DIは▲7.8 (前月比+3.2ポイント)と、 改善。産業別にみると、建設業は、マンションなどの住宅投資や企業の設備投資に 動きがみられたものの、土木関連を中心に低調な公共工事が足かせとなり、ほぼ横 ばい。製造業は、悪化したものの、「好転」から「不変」への変化が主因であり、 実体はほぼ横ばい。工作機械が堅調に推移するほか、エアコンなどの家電関連や一 服していたスマートフォン向けの受注増がみられた。卸売業は、猛暑に伴い、飲料 品をはじめとする夏物商品の引き合いが増えたほか、好調な観光関連や持ち直しつ つある住宅関連の需要増に下支えされ、改善。小売業は、プレミアム付商品券の政 策効果を背景に、衣料品や高額品、ギフトなどの売れ行きが好調だったことなどか ら、マイナス幅が縮小。ただし、食料品の値上げに伴う節約志向の強まりや、猛暑 により一部の消費者が外出を控えた影響もみられ、企業によってばらつきが残る。 サービス業は、夏休みに伴う国内旅行の増加や好調なインバウンドに牽引された宿 泊業のほか、帰省客・旅行客を中心に利用が伸びた飲食業、飲料品など夏物商品の 出荷が増えた運送業が全体を押し上げ、改善。
- 〇 向こう 3 カ月($9 \sim 1$ 1月)の先行き見通しについては、全産業合計の売上DI (今月比ベース)が \blacktriangle 9.0 (今月比 \blacktriangle 1.2 ポイント)と悪化するものの、「好転」から「不変」への変化が主因であり、実体はほぼ横ばいの見込み。
- 産業別に先行き見通しをみると、今月と比べ、改善を見込む建設業、製造業は「悪化」から「不変」、悪化を見込むその他の3業種は「好転」から「不変」への変化が主因であり、実体はほぼ横ばい。

元工(文注・山間)して、前午四月比)の推移										
	15年						先行き見通し			
	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9~11月			
全産業	▲ 20. 1	▲ 8.3	▲ 4.5	▲ 10.2	▲ 11.0	▲ 7.8	▲ 9.0			
建 設	▲ 2.4	▲ 12.6	▲ 12.9	▲ 16. 7	▲ 22.2	▲ 22.7	▲ 10.0			
製造	▲ 9.1	▲ 8.2	▲ 4.4	▲ 9.4	▲ 8.2	▲ 10.6	▲ 6.6			
卸売	▲ 32.5	▲ 12.8	▲ 6.5	▲ 2.9	▲ 4. 1	0.0	▲ 5.7			
小 売	▲ 48.7	▲ 4.9	2. 7	▲ 12.6	▲ 16.4	▲ 9.7	▲ 18.0			
サービス	▲ 10.8	▲ 7.0	▲ 5.0	▲ 7.9	▲ 4.6	3. 1	▲ 4.0			

売上(受注・出荷)DI(前年同月比)の推移

※「先行き見通し」は当月に比べた向こう3カ月の先行き見通しDI



《売上(受注・出荷)DI(全産業・前年同月比)の推移》

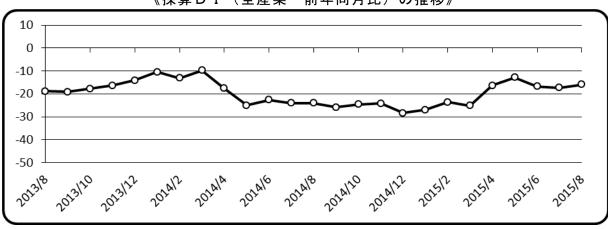
【採算の状況についての判断】

- 採算面では、全産業合計の採算DIは▲16.0(前月比+1.4ポイント)と、改善したものの、「悪化」から「不変」への変化が主因。産業別にみると、建設業は、「悪化」から「不変」への変化が寄与しており、実体はほぼ横ばい。原油安に伴う燃料費の削減効果がみられるものの、人件費や外注費の増大が足かせとなる状況が続く。製造業は、改善したものの、「悪化」から「不変」への変化が主因であり、取引先からのコストダウン要請や人材確保のための賃上げによる収益圧迫を指摘する声が聞かれる。卸売業は、仕入価格上昇分の転嫁交渉の難航に加え、取引先からの値下げ要求の強まりなどにより、受注増が収益改善に結びつかず、悪化。小売業は、プレミアム付商品券の政策効果もあって、利益率の高い高付加価値商品や高額品の売れ行きが伸び、採算好転に寄与した一方、ネット販売を含めた競合他社との価格競争や人件費の上昇に伴う収益圧迫などが下押し要因となり、横ばい圏内の動き。サービス業は、ガソリン価格下落の恩恵を受けた運送業や、単価の高い商品の人気が堅調な宿泊業が全体を押し上げ、改善。ただし、食料品の値上げやアルバイトの人件費上昇などが足かせとなり、改善幅は小幅に止まる。
- 〇 向こう3カ月($9\sim1$ 1月)の先行き見通しについては、全産業合計の採算DI (今月比ベース)が $\blacktriangle1$ 5.7 (今月比+0.3ポイント)と、ほぼ横ばいの見込み。
- 産業別に先行き見通しをみると、今月と比べ、改善を見込む建設業、製造業は「悪化」から「不変」、悪化を見込むその他の3業種は「好転」から「不変」への変化が主因であり、実体はほぼ横ばい。

	15年						先行き見通し			
	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9~11月			
全産業	▲ 25. 1	▲ 16.4	▲ 12.8	▲ 16. 7	▲ 17. 4	▲ 16. 0	▲ 15. 7			
建設	▲ 14. 2	▲ 13.9	▲ 12. 7	▲ 15. 1	▲ 21.4	▲ 19.8	▲ 13.5			
製造	▲ 18.7	▲ 15.5	▲ 13. 1	▲ 18.2	▲ 19.5	▲ 15. 2	▲ 12.3			
卸売	▲ 35. 1	▲ 18.1	▲ 14.9	▲ 13.0	▲ 13. 1	▲ 17.2	▲ 19.5			
小 売	▲ 45. 4	▲ 18.5	▲ 10.6	▲ 20.4	▲ 22.0	▲ 21.3	▲ 24.4			
サービス	▲ 15.4	▲ 16.0	▲ 13.8	▲ 14.7	▲ 9.9	▲ 8.8	▲ 11.0			
V*/ [#./- *	_ _ \									

採算 D I (前年同月比) の推移

※「先行き見通し」は当月に比べた向こう3カ月の先行き見通しD I



《採算DI(全産業・前年同月比)の推移》

資金繰りDI(前年同月比)の推移

	15年						先行き見通し
	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9~11月
全産業	▲ 14. 2	▲ 8.8	▲ 10.4	▲ 10.4	▲ 12. 1	▲ 11. 4	▲ 11.2
建設	▲ 8.6	▲ 2.5	▲ 4.6	▲ 7.5	▲ 10.7	▲ 8.3	▲ 8.7
製造	▲ 12.0	▲ 8.8	▲ 10.6	▲ 10.0	▲ 11.5	▲ 12.2	▲ 10.9
卸売	▲ 12.7	▲ 6.0	▲ 7.1	▲ 5.3	▲ 7.7	▲ 6.3	▲ 10.9
小 売	▲ 24.8	▲ 16.0	▲ 16. 2	▲ 15.5	▲ 19.3	▲ 17.4	▲ 16. 7
サービス	▲ 10.9	▲ 7.3	▲ 10.4	▲ 10.5	▲ 9.1	▲ 9.7	▲ 8.3

D I = (好転の回答割合) - (悪化の回答割合)

【前年同月比DI】全産業合計の資金繰りDIは▲11.4と、前月からほぼ横ばい。 産業別にみると、製造業、サービス業でほぼ横ばい、その他の3 業種で改善。

【先行き見通しDI】全産業合計の先行き見通しは、今月と比べ、ほぼ横ばいの見込み。産業別にみると、製造業、サービス業で改善、卸売業で悪化、その他の2業種でほぼ横ばいを見込む。

仕入単価 D I (前年同月比) の推移

	15年						先行き見通し
	3 月	4月	5月	6月	7月	8月	9~11月
全産業	▲ 44. 5	▲ 44. 7	▲ 43. 7	▲ 42.5	▲ 46. 7	▲ 41.0	▲ 33.8
建設	▲ 50.5	▲ 49.4	▲ 43.9	▲ 41.8	▲ 50.4	▲ 44. 5	▲ 38.8
製 造	▲ 41.4	▲ 40.3	▲ 37.8	▲ 38.7	▲ 44.7	▲ 36. 1	▲ 26. 1
卸売	▲ 47. 1	▲ 52.7	▲ 59. 2	▲ 55.3	▲ 49.7	▲ 51.4	▲ 40.6
小 売	▲ 49.0	▲ 44.9	▲ 44.3	▲ 43.8	▲ 46. 1	▲ 43.3	▲ 42.3
サービス	▲ 38.8	▲ 42.1	▲ 42.2	▲ 39.7	▲ 45. 4	▲ 36.7	▲ 27.4

DI= (下落の回答割合) - (上昇の回答割合)

【前年同月比DI】全産業合計の仕入単価DIは▲41.0と、前月から改善したものの、「悪化」から「不変」への変化が主因。産業別にみると、悪化した卸売業は「好転」から「不変」、改善したその他の4業種は「悪化」から「不変」の変化が主因であるため、実体はほぼ横ばい。

【先行き見通しDI】全産業合計の先行き見通しは、今月と比べ、改善を見込むものの、「悪化」から「不変」への変化が主因。産業別にみても、改善を見込む建設業、製造業、卸売業、サービス業は「悪化」から「不変」への変化が影響しており、実体はほぼ横ばい。小売業もほぼ横ばいを見込む。

従業員DI (前年同月比) の推移

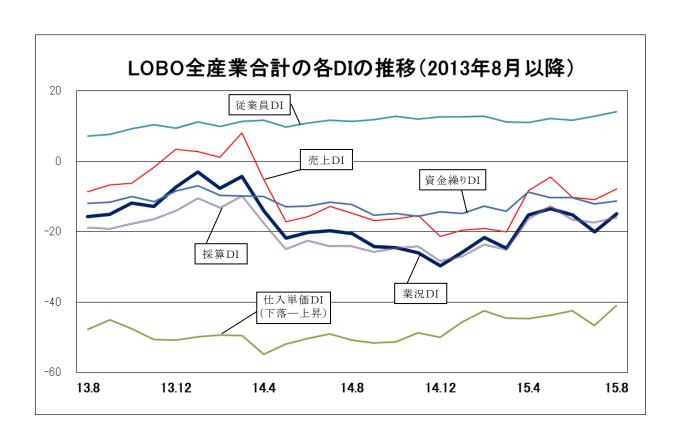
		15年						先行き見通し
		3月	4月	5月	6 月	7月	8月	9~11月
全 産	業	11. 1	11.0	12. 1	11.6	12.8	14. 1	15. 0
建	設	16. 3	9.3	14. 2	7. 9	15.8	13. 7	20. 3
製	造	7. 2	2.2	2.3	5. 4	4.3	8. 5	7. 7
卸	売	▲ 1.3	6.6	4.2	4. 1	5. 9	8. 6	8. 0
小	売	14. 2	16. 1	16. 9	16. 2	15. 5	16. 7	17. 9
サー	ビス	15. 1	18. 0	20.2	19. 5	20.9	20.5	20. 1

DI=(不足の回答割合)-(過剰の回答割合)

【前年同月比DI】全産業合計の従業員DIは14.1と、前月から人手不足感が強まった。産業別にみると、建設業は人手不足感が弱まり、サービス業はほぼ横ばい、その他の3業種は人手不足感が強まった。

【先行き見通しDI】全産業合計の先行き見通しは、今月と比べ、ほぼ横ばいとなる 見込み。産業別にみると、建設業、小売業は人手不足感が強まり、 その他の3業種はほぼ横ばいを見込む。

※「先行き見通し」は当月に比べた向こう3カ月の先行き見通しDI



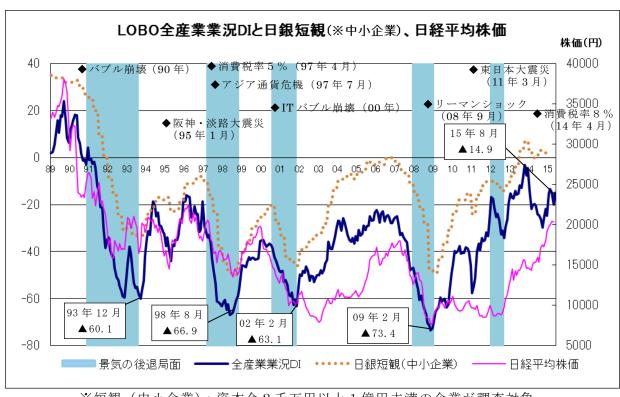
【ブロック別概況】

- ブロック別の業況DI (前年同月比ベース) は、北海道でほぼ横ばい、東北で悪化、その他の7ブロックで改善。ブロック別の概況は以下のとおり。
- ・ 北海道は、夏休みに伴う国内旅行の好調などを背景に小売業や飲食・宿泊業で業 況が改善したものの、公共工事の動きが鈍い建設業が下押しし、ほぼ横ばい。
- ・ 東北は、食料品の値上げを受けて不要な支出を控える消費者が増えているとの声があり、小売業で売上が伸び悩んだほか、人手不足に伴う人件費の上昇や受注の抑制がみられた建設業が全体を押し下げ、悪化。
- ・ 北陸信越は、北陸新幹線沿線を中心に好調だった観光関連が牽引役となったほか、 堅調な工作機械をはじめ、製造業でも業績改善が進み、2カ月ぶりにマイナス幅 が縮小。
- ・ 関東は、猛暑の影響により、飲料品をはじめ夏物商品の動きが活発だった小売業 や家電・スマートフォン向けの受注が伸びた製造業が全体を押し上げ、2カ月ぶ りに改善。
- ・ 東海は、円安に伴う生産の国内シフトが一部で出始める中、省力化や能力増強な どの設備投資に動きがみられた工作機械関連が下支えし、3カ月ぶりにマイナス 幅が縮小。
- ・ 関西は、旺盛なインバウンド需要を背景に、小売業が堅調だったことに加え、建 設業では住宅投資に持ち直しの動きがみられるなど、2ヵ月連続で改善。
- ・ 中国は、プレミアム付商品券などの政策効果により小売業の売上が伸びたほか、 造船や工作機械関連の生産が底堅く推移し、2カ月ぶりに改善。
- ・ 四国は、お盆を中心とする観光需要の伸びに牽引され、飲食・宿泊業や飲料・食料品関連の卸売業で業況が好転したことから、2カ月連続でマイナス幅が縮小。
- ・ 九州は、中国や韓国からの外国人観光客増加に伴う小売業・宿泊業の売上増が寄与したほか、電子部品・デバイスや化粧品を含む化学などの生産が堅調だったことから、2カ月ぶりに改善。
- ブロック別の向こう3カ月 (9~11月) の業況の先行き見通しは、今月と比べ、 北海道、関東、関西で改善、中国、四国で悪化、その他の4ブロックでほぼ横ばい の見込み。プレミアム付商品券などによる消費喚起や、インバウンドをはじめとす る観光関連の需要増、住宅・設備投資の回復などへの期待感が伺える。他方で、コ スト増加分の転嫁遅れや人手不足の状況が続く中、食料品などの値上げに伴う消費 者マインドの低下や、中国経済の減速による影響を懸念する声が聞かれるなど、先 行きに確信を持てない企業も多く、回復に力強さを欠く。

ブロック別・全産業業況DI(前年同月比)の推移

		— / / //ii	土圧木木		1.1 T 1P1 / 1 PL		
	15年						先行き見通し
	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9~11月
全 国	▲ 24. 7	▲ 15. 3	▲ 13. 5	▲ 15. 3	▲ 20.0	▲ 14. 9	▲ 13.5
北海 道	▲ 34. 7	▲ 9.3	▲ 12. 7	▲ 15. 7	▲ 21.4	▲ 20.7	▲ 9.9
東 北	▲ 24.0	▲ 15. 7	▲ 18.4	▲ 20.9	▲ 17.9	▲ 20.6	▲ 20.6
北陸信越	▲ 27. 2	▲ 21.3	▲ 11.1	▲ 7.1	▲ 15.6	▲ 10.8	▲ 10.1
関 東	▲ 26. 1	▲ 17.2	▲ 16. 2	▲ 15. 1	▲ 22.7	▲ 18.0	▲ 16. 1
東海	▲ 23.6	▲ 11.1	▲ 0.6	▲ 11.7	▲ 18.1	▲ 10.5	▲ 10.5
関 西	▲ 22.5	▲ 9.1	▲ 10.2	▲ 15.8	▲ 14.5	▲ 13. 2	▲ 7.9
中 国	▲ 16. 7	▲ 17.9	▲ 17.9	▲ 15.8	▲ 25.3	▲ 11.1	▲ 18.0
四 国	▲ 21.0	▲ 17.3	▲ 17.9	▲ 21.2	▲ 17.1	▲ 8.8	▲ 11.3
九州	▲ 23.5	▲ 17.7	▲ 17.5	▲ 16.5	▲ 25. 2	▲ 14.6	▲ 13.8
							1

※「先行き見通し」は当月に比べた向こう3カ月の先行き見通しDI



※短観(中小企業): 資本金2千万円以上1億円未満の企業が調査対象